

博物館と美術館

渡 辺 孝



26年前、ヨーロッパを一人旅して、ロンドンで音に聞く大英博物館British Museumに入ったとき、何だ、これは博物館ではなくて、美術館ではないかと思ったことを覚えている。事実、ここの美術品は凄^やいもので、エジプト、ギリシャ、ローマ、アッシリアそれに日本や中国の美術品まで、超一級の作品がずらりと並んでいる。中でもアテネのパルテノン神殿の彫刻は、エルギン・マールと名づけられて特別室に展示されており、ギリシャ本国顔負けの豪勢さである。そういえば、パリのルーブル美術館も、Musée だから、博物館と訳してもいいわけだが、ここはご存じのように完全な美術館である。

これに対して、イタリアはどうやら博物館と美術館を区別しているらしい。博物館のことをイタリア語で Museo といい、美術館のことを Galleria というが、フィレンツェの有名なウフィッツィは Galleria であって Museo ではないし、ラオコーン群像で知られるバチカン美術館も Galleria である。ドイツのミュンヘンはもっと徹底していて、世界的に有名なドイツ博物館 Deutsches Museum は自然科学と工業が専門で、炭鉱の横断面まで実物大で見せているのには驚いたが、美術館のほうはドイツ語で「芸術の家」Haus der Kunst と名づけられて、まったく別の場所にあり、ルーベンス、ラファエロ、ゴッホ、ルノアールなど、よだれの出るような作品が並んでいる。

ではアメリカはどうか。ここはどうもはっきりした区別はないらしい。30年前、ある研究

所に半年ばかり留学したとき、ヒマにまかせて博物館や美術館を見て歩いたが、ワシントンの国立美術館もニューヨークのメトロポリタンも両方とも Museum である。

こういう具合に Museum や Musée が博物館になったり美術館になったりするのには、語源的には Museum や Musée がギリシャの芸術の女神のムーサ（英語ではミューズ）から来ていることによるらしい。ミュージックの語源もムーサである。ものの本によれば、古代のアレキサンドリアでムーサの女神にささげられたムセイオンが Museum の起源だというのが、芸術の女神の建物だから、美術館になってもいいし、もっと幅広く学問芸術一般の施設である博物館になってもいいわけなのだろう。

日本では、法律的には美術館は博物館の一種だから、博物館の守備範囲は美術館のそれを含むはずであるが、奈良の国立博物館など少数の例外は別として、美術品は美術館、それ以外のものは博物館という一応の棲み分けが出来ているようである。これも一つの見識だろう。しかし仏像は別のようなのである。岐阜県博物館の収蔵品にも仏像があるし、昨秋ここで催された仏像展はすばらしいものだった。恥ずかしながら、私はこの年齢になるまで、あれだけ優れた仏像が県下にあることは知らなかった。ミューズに相当する仏さまは伎芸天だそうだが、この種の催しは語源的に見ても博物館にふさわしいものだろう。

県下の博物館が生涯教育の拠点としてますます発展されることを心から祈りたい。

(岐阜県教育委員)

平成 3 年度

東海地区博物館連絡協議会 開かる 日本博物館協会東海支部総会

平成3年6月13日(木)・14日(金)の両日にわたり岐山会館を中心に平成3年度東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部総会が開催されました。

日本博物館協会からは毛利正夫専務理事が参加下さり、総会では篠田幸雄岐阜県教育委員会教育長からも来賓としてご挨拶を賜りました。

総会には、静岡県10名、愛知県28名、山梨県10名、神奈川県23名、岐阜県46名で総数121名の参加者がありました。

第1日目は午前中理事会、午後は総会と講演会が行われ、内藤記念くすり博物館顧問の青木允夫氏が「医薬に関する年中行事」(別項)の演題で講演されました。

第2日目は川島町ふるさと史料館・内藤記念くすり博物館・羽島円空資料館の3館の見学を行い、82名が参加されました。

1日目の夜の懇親会には90名の参加を得、各

県、各館・園の交流がにぎやかに行われました。

総会の場で次の方々表彰されました。

小林 明氏

(久能山東照宮博物館-静岡県博物館協会推薦)

(表彰規定第2条第1号該当)

野村辰美氏

(熱田神宮宝物館-愛知県博物館協会推薦)

(表彰規定第2条第4号該当)

古瀬 與一氏

(名古屋市科学館-愛知県博物館協会推薦)

(表彰規定第2条第1号該当)

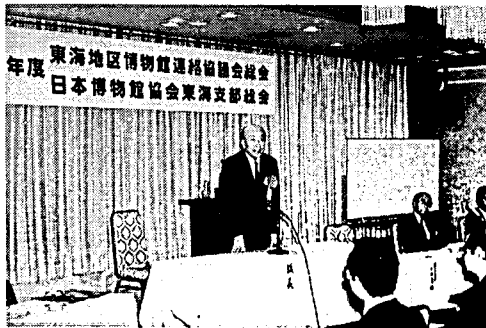
竹田 稔氏

(山梨県立美術館-山梨県博物館協会推薦)

(表彰規定第2条第1号該当)

堤 俊夫氏

(株式会社京急油壺マリンパーク-神奈川県博物館協会推薦)(表彰規定第2条第1号該当)



毛利正夫 日博協専務理事の挨拶



総会会場風景



篠田幸雄 岐阜県教育長の挨拶



懇親会場風景

記念講演『医薬に関する年中行事』要旨

内藤記念くすり博物館顧問

医学博士 青木 允夫 氏

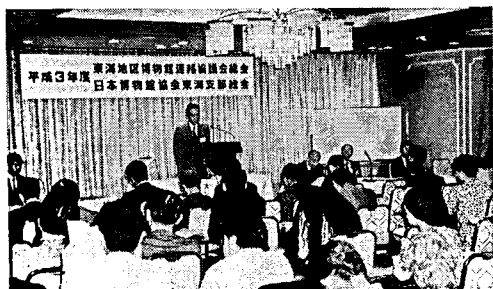
宮中で1年の中で一定の時期に慣例として行われる公事を年中行事といい、民間の行事、祭事にもいう、と広辞苑にある。宮中行事が民間に広まり、大衆化され、時代も変わると、その形式、目的など大きく変わったものも少なくない。さらに最近ではニューフェースの年中行事が多く誕生してきた。古くから行われてきた年中行事の中で医薬、医療に関するものについてお話ししてみたい。

1月1日、1年の無病招福を祈念して飲む屠蘇酒は防風、白朮、大黄、桂皮、山椒、桔梗などの薬草酒である。中国伝来のもので平安時代に宮中行事となり、江戸時代に大衆化され今日でも広く行われている。

1月7日、セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロの七草粥を食べ、無病息災を祈る。6日の晩から7日の朝にかけて、はやし唄を歌いながら若菜を叩く。「七草ナズナ、唐士の鳥が、日本の土地に渡らぬ先に、ストントン」これが七草粥で、年の始めに五穀に害を与える害虫を追い払う農耕儀礼とされる。また疱瘡など疫病をもたらす疫鬼を追い払うためともいう。

1月15日、小豆粥を神前に供え、宮中で食べて1年中病気にかからぬよう願う。左義長(どんど焼)の火で餅を焼いて食べると年中の除病となるとされる。

2月初め、節分には除病行事として、焼いたイワシの頭をヒイラギに刺して門口にかかげ、



講演中の青木允夫氏

邪気払いの呪いとした。病気をもたらす悪魔は強い匂いが嫌いなので家に入らないというものである。

3月3日、雛祭、淡路願人が淡路さまの縁起を唱えて全国を巡り歩き、女性の下の病を祈ったのに始まる。淡路さまは住吉明神の後となったが、婦人病のため離縁となり、住吉社の門扉に乘せられ流され、紀州の淡島に漂着したのが3月3日という。淡路さまは綾で人形を作り、身の病を除くため海に流した、災厄のかた代りをする流し雛の祖形である。呪術的な人形が守り雛に、さらに飾り雛に変わってきた。

5月5日、薬日、推古天皇が611年大和国で薬狩りをしたこと、この日が薬日に代った。薬にする鹿の角を取るのが薬草採集に代った。この日、匂いの強い薬草で玉を作り、綾錦でつつみ五色の糸を垂らし、ショウブやヨモギを添えて軒にぶらさげ病魔の侵入を防いだ薬玉の語源である。

6月30日、茅の輪くぐり、茅の輪を腰に下げていると疫病から逃れるという蘇民将来伝説による。

9月9日、菊の節供、この日菊酒を飲むと長寿するという中国の伝説による。

12月冬至、この日ユズ湯に入ったり、カボチャを食べ、寒さに備えての健康を祈った。

このほか多くの行事がある。予防医学のための年中行事、夕食の一家団欒の折など、家族が集まった時、そのいわれを話し聞かせ、健康について考える日とされてはいかががでしょうか。

施設見学

全国に誇る特色ある三館を見学

東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海地区総会の二日目は、県内の博物館施設三か所を巡見した。日程の都合上、岐阜市近郊の川島町ふるさと史料館、内藤記念くすり博物館、羽島市円空資料館の三か所だけになったが、かすある岐阜県内の博物館の中から、特色のある、岐阜らしい施設の選択がなされていたように思う。

前日、総会・レセプションが行われた 岐山会館を午前9時に、バス2台で出発。マイクロバスには岐阜県関係者、内藤記念くすり博物館が用意して下さった大型バスには他県の人と分乗。岐阜市中を抜け、一路川島町へ。

愛知県と接する川島町は、その名のとおり、木曾川の中洲に発達した町である。川島町ふるさと史料館は、老人福祉センターや図書館等が併設された複合施設のなかにある。町民の利便や町行政の効率を考えた未来型の文化施設といえる。他県の人々も、小さな町の21世紀を見据えた生涯教育行政に感心されていたようだ。史料館では、木曾川の幾多の氾濫を乗り越えて人々が力強く生活してきた足跡や、木曾川の自然環境に目が注がれていた。

二か所目の視察は、同じ川島町にある内藤記念くすり博物館である。初め講堂で同館館長藤田氏のオリエンテーションを受け、その後三班



川島町ふるさと史料館

に分かれて、同館の学芸員の方の案内で展示室の見学を行った。日頃から何かとお世話になる葉の事ではあるが、その起源や中国医学・蘭方医学の伝来、薬に関する道具の歴史など知らない事の連続であった。その後、館前に広がる薬用植物園、日本庭園を散策。雨上りのさわやかな日和の中で交流も一段と深まったようである。昼食後、内藤記念くすり博物館を後にする。

視察最後の目的地は、羽島市円空資料館である。ここは円空出生の地とされる中観音堂に近接して建てられ、レプリカ三十体余り、関係図書、資料を公開している。当日は観音堂の本尊十一面観音像等十七体の円空仏も併せて拝観した。小さな資料館ではあるが、史蹟と合わせた施設として、今後も多くの観光客を呼ぶ所だろう。全国いたるところに円空仏はあり、各地で信仰を集めてきた仏像だけあって、県外からの参加者も熱心に見ておられ、その独特の表現法に感心されていたようだ。

三か所の視察を終え、二日にわたる日程は、つつがなく終了した。円空資料館の前で、篠田岐阜県博物館長のあいさつのあと、解散となった。来年度の開催県は、静岡県である。その時また、新たな情報を交換できるよう、博物館界の新たな視座を目指し、切磋琢磨して、博物館事業に力を注ぎたいものである。



内藤記念くすり博物館

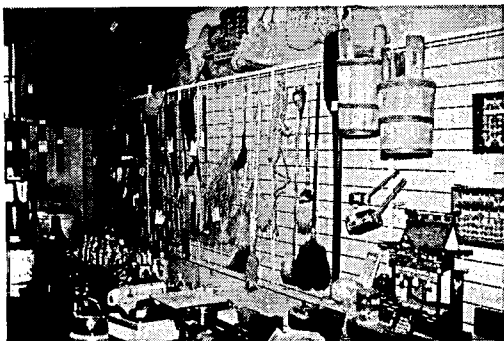
糸貫町民俗文化財収蔵館

〒 501-04 本巣郡糸貫町七五三更屋敷
TEL (0583) 23-1161

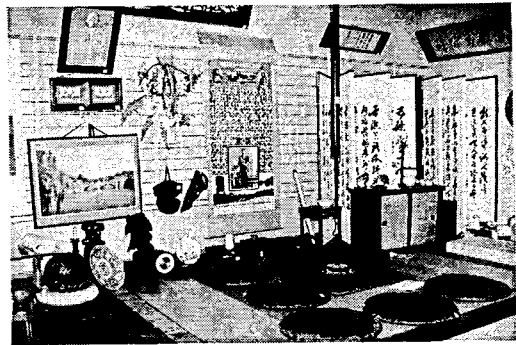
西濃中部、根尾川の扇状地が広がり、肥沃な田園地帯を形成する糸貫町も地価高騰のあおりを受け、利便性ゆえ近年急速に都市化され始めている。加速度的に近代化され、伝統的な民俗文化が消えかけている状況は、糸貫町も例外ではない。

舟木山古墳や県指定重要文化財・長屋神社、馬駟祭りなど伝統を育んできた糸貫の地に、昭和57年11月民俗文化財収蔵館が開館した。建物は旧土貴野小学校の校舎を利用したものである。町民憲章第一にある「歴史を尊び、自然を生かし、豊かな町を作りましょう。」の精神に則り、現在教育委員会の囑託をされている林秀夫先生を中心に、十余年の年月をかけて町内各地から集められた資料は15,000点を越える。それらは、廊下を含めた四室に整然と分類、陳列されており、入館者はその質、量に圧倒される。

入口すぐの廊下には、生産用具が並べられている。千歯こきやとうみなどの稲作にかかわる農具やかまどの他、かつて日本の産業を支えた養蚕具、つい最近まで使用されていたような、それでいて今はあまり見かけなくなった耕作具などが顔を揃えている。第1室には、手廻映写



△ 木材加工具やみのかさなど（2号室）



△ いろいろのある部屋（3号室）

機や真空管のラジオからカラーテレビまでが揃っており、視聴覚機器の変遷が一目で分かるようになっていたり、大八車の輪や人力車、自転車、籐製の乳母車など運搬用具が陳列してある。第2室は、生活用具を中心に展開される。衣料品の数々、各種の燈火類、鋸などの木工加工具などのほか、鍋・釜、食器、調理用具、雨具、たんす等、その種類は枚挙にいとまがない。第3室は、小学校の時は、音楽室兼講堂だったらしく、舞台が残してある。今はそこに囲炉裏を切り、一昔前の生活様式の再現をしている。陳列品はこの部屋も多種多様であり、各時期の時計、かんざしや教科書のほか、骨董品の類いも所狭しと並べられている。

館では、小学校の社会科の授業にこれらの資料を貸し出し、生の教材として利用しているそうである。機能性や即効力が重視されるようになった現代文明のただなかにおいて、先人たちが創り出し、伝えて来た民俗資料に目を向け、その暖かみを感じることの大切さを教えてくれる。そんな格好の教材の宝庫、それが糸貫の民俗文化財資料館の姿である。糸貫の子供たちは言うに及ばず、広く県民に「温故知新」の言葉の意味を教え続ける館であって頂きたいと思う。

問い合わせ 糸貫町教育委員会
(0583) 23-1161
◎ 申し込みがあり次第、随時開館

郷土文化伝習館

〒509-45 岐阜県古城郡宮川村塩屋

TEL (0577) 62-3251

宮川村教育委員会

岐阜県古城郡宮川村林

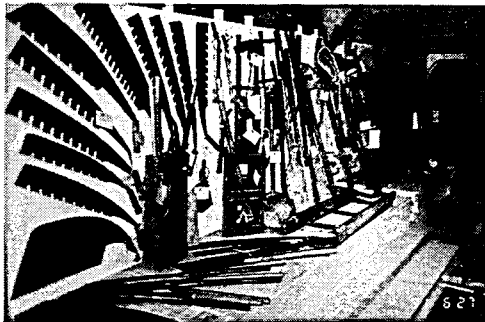
TEL (0577) 63-2311

当館はJR東海高山線を北上、富山県境に近い打保駅を下車して徒歩5分のところに昭和62年設立されました。

館内には重要有形文化財の指定を受けた「宮川及び周辺地区の積雪用具」2,800点を中心に、江戸時代より今日までの12,000点に及ぶ生活用具が収納されています。特に文化財指定の積雪用具は1年のうち半分以上の生活に欠く事の出来ない除雪など雪との闘いに使用されたものが圧巻で、それに付随して住(囲炉裏、炬燵)衣(雨具、防寒具)生産(農耕、狩猟)運搬(荷車、籠)など現在使用されていない貴重な用具が部門別に整理保存、展示されています。

館内の実習室では今では見られなくなった炭俵作りや藁細工、機織りの体験学習も出来るように設備されていますが、これらは団体、予約が必要です。

その他住民より拠出の江戸時代から昭和初期までの民俗資料も多数展示されています。開館は4月1日より11月30日まで、午前9時より午後4時まで、入館料は大人200円、小・中・高生100円で、休館日は毎週月・火となっています。詳しくは伝習館もしくは教育委員会にお尋ねください。



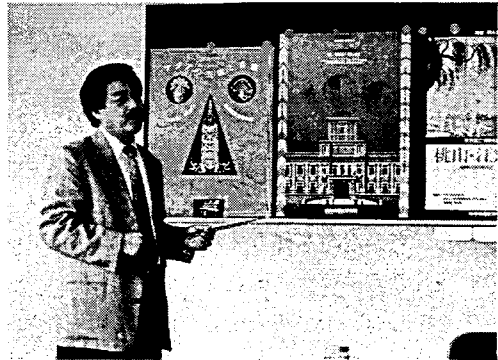
展示場



郷土文化伝習館全景

第19回会員研修会報告

「博物館のポスターづくり」



第19回研修会を6月25日伊自良村歴史民俗資料館において下記の要領で実施した。

〈研修内容〉

- ・ 講演；「博物館のポスターづくり」
—— 魅力的なレイアウト ——
講師；「ユーグラフィック」アートディレクター 加藤由朗氏
- ・ 研修；自作のポスターを例に、構図・色採等について話し合う。
- ・ 展示場見学

参加者は11名で少数であったが、加藤由朗氏の幅広い専門的知識に立った内容を丁寧に話していただき、有意義な研修会であった。

中でも、種々のポスターを例とした、「展示会で何を訴えたいのかが分かるポスターであること」、「神秘的な図案をポスター化し、その中に書く字は精選すること」などの話は、すぐに実行したいという衝動にかられるものであった。

第48回 公開講座報告

『村の活性化と民俗資料館のあり方』

と き 平成3年5月24日
ところ 大野郡荘川村「荘川の里」
講 師 飛騨民俗学会
会長 角竹 弘氏

本年度第1回の公開講座を、中・北濃地区が担当して荘川村教育委員会との共催のもと、新緑あふれる「荘川の里」内において開催した。

今回の講演会は、荘川村役場企画観光課の絶大な協力が得られ、県重要文化財三島家内の座敷においてくつろいだ形で行うことができた。また、村内へ広く広報していただいた結果、地元から多数の聴衆者を迎え、参加者総数83名と盛会のうちに終了することができた。

◇ 角竹先生の講演要旨

先生は、飛騨荘川村と自分とのかかわりについて話された後、民俗資料の展示について白を例にあげながら、日本の道具は引くことによって用をなしているが、白は手前から押すことによって粉が出てくる仕組みになっており、遠く中国大陸の麦栽培の技術とともに日本にもたらされた道具ではないかと解説された。そのうえで、白の粉となる裏面の造りは地域によって差があることや、粉となるにはどのような仕組みとなっているのか等が理解できるように、展示の方法に工夫が必要であり、資料を置いておくだけでは不十分である。また、展示品の横に同じものを置いて、自由に観覧者が試してみる場



を設けておくことの必要性も指摘された。

先生は、歴史民俗資料館が資料を収集し展示を行う際に大切なことは、確かな記録を取っておくこと。一般的な名称ではなく、その所有者が呼んでいた名称が大切であり、同じものでも数多く収集すること、使用方法等を映像化する等、地道な積み重ねが経済活動や文化の広がり等の研究を深めていくことになると述べられた。また、山村の食生活は、過去においては栃の実と密接な関わりがあった。こうした食文化を再現するために、栃の実の採集から食用として製品化するまでの過程を展示し、実演も行う。

このように、過去の生活文化の持つ意味を後世に伝えていくためには、民俗資料館は今こそ経験者が生存中であることを最大限に生かし、それらの方々を講師として活躍してもらう場を設けること。このことがその地域の特色となり都会人にアピールし、観光として地域の活性化の方策ともなるものである。全国的な視野からすると、特に焼畑農業の復元が求められており、復元されれば全国各地から見学者が訪れると思われる。岐阜県では白川村等で幅広く行われていたことから、ぜひこの地で復元していただきたいこと等を強調されて終られた。

◇ 公開講座の予定

本年度第2回以後の公開講座を次のように計画しております。ぜひ多数ご参加ください。

第49回 公開講座 8月5日(月)

会 場 中津川市苗木遠山史料館
恵那地域の画人

第50回 公開講座 10月13日(日)

会 場 岐阜県博物館
海を渡る蝶―渡瀬線と生き物たち

第51回 公開講座 平成4年1月28日(火)

会 場 岐阜県美術館
講演とガラス展及びハイビジョンの見学

平成2年度 岐阜県博物館協会歳入歳出決算書

(平成3年3月31日現在)

前期繰越金	109,104円	支出金	978,083円
収入金	1,038,881円	次期繰越金	169,902円
合計	1,147,985円	合計	1,147,985円

歳入の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	収 入 済 額	増 減 (△)	備 考
会 費	514,000	543,000	29,000	県立 3館 30,000円 市町村立 51館 255,000円 私立法人 52館 156,000円 個人会員 21名 42,000円 賛助会費(高山市) 50,000円 入会金 5館 10,000円
補助金	490,000	490,000	0	岐阜県 390,000円 岐阜市 100,000円
雑入	1,340	5,881	4,541	預金利息
前年度より繰越金	109,104	109,104	0	
合 計	1,114,444	1,147,985	33,541	

歳出の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	支 出 済 額	残 額	備 考
事務局費	302,444	223,695	78,749	
通信連絡費	141,444	80,699	60,745	
印刷費	30,000	29,890	110	
需用費	40,000	35,752	4,248	
表彰費	80,000	77,354	2,646	
振替手数料	1,000	0	1,000	
慶弔費	10,000	0	10,000	
機関紙費	357,000	343,605	13,395	第90号 7. 20発行 第91号 10. 15発行 第92号 12. 28発行 第93号 3. 31発行
印刷費	210,000	210,000	0	
通信連絡費	80,000	79,546	454	
取材費	57,000	46,453	10,547	
会議費	10,000	7,606	2,394	
公開講座費	140,000	132,456	7,544	年4回開催 第44回 5. 10開催 第45回 8. 2開催 第46回 10. 28開催 第47回 2. 5開催
開催費	85,000	82,409	2,591	
印刷費	10,000	10,000	0	
通信連絡費	30,000	25,047	4,953	
会議費	15,000	15,000	0	
三県交流研修費	45,000	45,000	0	当番県 愛知県
東海博総会費	45,000	45,000	0	当番県 神奈川県
日博協全国大会	32,000	32,000	0	会場 金沢市
総会費	73,000	67,400	5,600	5月7日 於：岐阜県博物館
通信連絡費	25,000	25,000	0	
食糧費	30,000	27,000	3,000	
会議費	18,000	15,400	2,600	
協会会員研修会費	60,000	28,927	31,073	年3回開催 第13回 6. 14開催 第14回 台風のため中止 第15回 12. 14開催
開催費	40,000	19,429	20,571	
通信連絡費	20,000	9,498	10,502	
常任理事会費	60,000	60,000	0	3月14日 於：フジ会館
会議費	20,000	20,000	0	
旅費	40,000	40,000	0	
合 計	1,114,444	978,083	136,361	

平成3年度 岐阜県博物館協会歳入歳出予算書

歳入の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減(Δ)	備 考
会 費	553,000	514,000	39,000	県立 3館 30,000円 市町村立 52館 260,000円 私立法人立 55館 165,000円 個人会員 20人 40,000円 賛助会費(高山市) 50,000円 入会金 4館 8,000円
補助金	640,000	490,000	150,000	岐阜県 490,000円 岐阜市 150,000円
雑 入	1,800	1,340	460	預金利息
繰 越 金	169,902	109,104	60,798	
合 計	1,364,702	1,114,444	250,258	

歳出の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減(Δ)	備 考
事務局費	266,702	302,444	△ 35,742	
通信連絡費	126,702	141,444	△ 14,742	
印刷費	30,000	30,000	0	
需用費	40,000	40,000	0	
表彰費	60,000	80,000	△ 20,000	
振替手数料	0	1,000	△ 1,000	
慶弔費	10,000	10,000	0	
機関紙費	350,000	357,000	△ 7,000	機関紙「岐阜の博物館」
印刷費	215,000	210,000	5,000	年4回発行
通信連絡費	73,000	80,000	△ 7,000	
取材料費	47,000	57,000	△ 10,000	
会議費	15,000	10,000	5,000	
公開講座費	133,000	140,000	△ 7,000	年4回開催
開催費	73,000	85,000	△ 12,000	
印刷費	10,000	10,000	0	
通信連絡費	25,000	30,000	△ 5,000	
会議費	25,000	15,000	10,000	
会員研修会費	60,000	60,000	0	年3回開催
開催費	40,000	40,000	0	
通信連絡費	20,000	20,000	0	
三県交流研修会費	110,000	45,000	65,000	当番県 岐阜県 諸経費 110,000円
東海博連協総会費	260,000	45,000	215,000	当番県 岐阜県 総会補助金 150,000円 分担金 30,000円 諸経費 80,000円
全国博物館大会費	52,000	32,000	20,000	会場 東京都
総 会 費	73,000	73,000	0	
通信連絡費	25,000	25,000	0	
食糧費	30,000	30,000	0	
会議費	18,000	18,000	0	
常任理事会費	60,000	60,000	0	
会議費	20,000	20,000	0	
旅 費	40,000	40,000	0	
合 計	1,364,702	1,114,444	250,258	

県内ニュース

◎岐阜県博物館協会総会開かる

平成3年度通常総会が5月9日(木)岐阜市科学館で行われました。協会の役員の一部が次の通り選任されましたので報告します。

- ・名誉会長 梶原 拓 (岐阜県知事)
- ・会 長 蒔田 浩 (岐阜市長)
- ・副会長 日下部尚 (高山市長)
青木允夫 (内藤記念くすり博)
篠田幸男 (岐阜県博)

総会の場で次の6氏が表彰されました。

◇平田吉郎氏

岐阜県博物館協会の副会長として永年にわたり協会の運営に多大な貢献をされました。

◇伊藤秀幸氏

岐阜県博物館協会の副会長として協会の運営に多大な貢献をされました。

◇堀部満氏

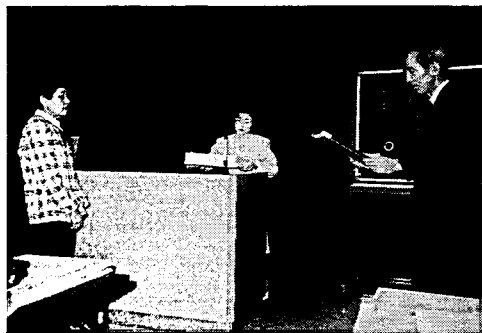
岐阜県博物館開設準備室並びに岐阜県博物館に永年にわたり勤務され博物館界のため多大な貢献をされました。

◇谷藤喜美子氏

岐阜城資料館に多年にわたり勤務され、来館者応待等に尽力され博物館界のため多大な貢献をされました。

◇深澤京子氏

多年飛騨民俗村及び高山市郷土館に勤務され博物館界のため尽力されました。



総会の場での表彰風景

◇谷畠博之氏

多年にわたり、高山市郷土館に勤務されるとともに「飛騨金森史」「飛騨天領史」の編集に携わり、郷土館学芸員として多大な貢献をされました。

◎新入館・園紹介

○郷土文化伝習館

〒509-45 吉城郡宮川村大字塩屋

TEL 0577-2-3251

代表者 野村恢司

開館日 平成2年4月1日

○美並ふるさと館

〒501-41 郡上郡美並村大字高砂1252-2

TEL 057579-3440

代表者 美並村教育委員会教育長 高橋弘

開館日 平成3年4月26日

○いなか工芸館

〒509-43 吉城郡河合村大字角川223-1

TEL 057765-2912

代表者 河合村長 松井靖典

開館日 平成3年4月1日

○白川八幡どぶろく祭の館(私立)

〒501-56 大野郡白川村大字荻町559

TEL 05769-6-1655

代表者 鈴木 茂

開館日 昭和61年7月15日

○大松美術館(私立)

〒501-61 羽島郡岐南町みやまち4-34-1

TEL 0582-76-6111

代表者 大松節子

開館日 平成3年6月15日

編集後記

平成3年度東海地区博物館協議会特集号をお届けします。本年は5年に1度回ってくる当番県として協会事務局員、機関紙委員は大奮闘でした。10月開催の東海三県交流研修会にも多くの参加をお願いします。